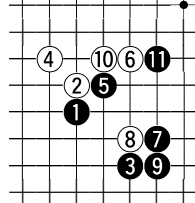


遊星ガイド (7)

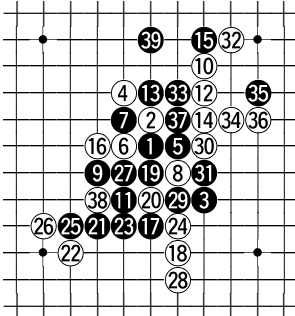
九段 河村典彦

今回も新しい白4の防ぎについてやっつけていこう。



【第57図】この白4遊星特有の防ぎだが、変化が面白い。まずは黒必勝の五珠から調べていこう。この黒5は打たれて見ると花月に見えるから不思議である。つまりこれで黒必勝の形になっている。白6の防ぎにも、黒7とけん制しておいて問題ない。白8のトビ三には黒9と外から止められる。白10には黒11の要領だ。形を知っていると簡単に勝てるものである。

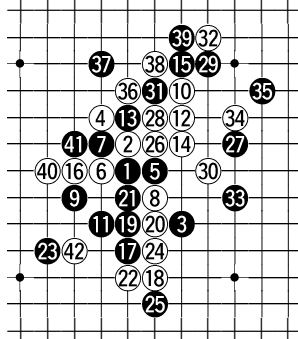
第58図



【第58図】この黒5は当然の一手に見えるが、白6と白も好形になるため、バランスが案外取れている。ここからの攻防が実に面白い。

いきなり長い変化になってしまいが、ご容赦願いたい。
白8の時、黒9と下から叩く手が肝要で、白10で単純に止めに行つては黒のスピードについていけない。そこで白は10と上辺に展開する。当然白10で33もあり、ほぼ同じ展開になる。少し違うのだが、後の展開を考えるとこちらをお勧めしたい。対して黒は11と白を無

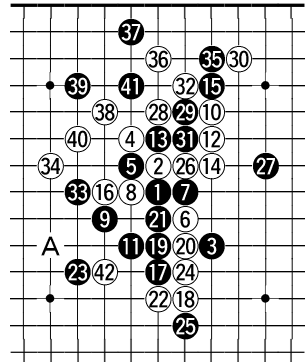
第59図



【第59図】黒としては、筋は悪いが黒19と引いて行った方がより攻撃的だ。黒21も伸びないといけないので少し損だが、黒23が損をしなくても打ちたい好点。これに対して白は24、26で先手を取る。このあたりはスリリングな展開である。白なおも30から攻めるが、黒31を打ってしまったら黒も止め切れる。右辺だけでは勝ちが出ないので、白は40と左辺を一旦止めに行く。黒としても先に40に伸びるのはちょっと打ちにくい。白42まで

止めておけば、白が負けることはないだろう。
【第60図】白は28から右辺で攻めることをあきらめ、左辺で勝負する順もある。白28で黒29の四ノビを強要し、白32と引く。今度は黒

第60図

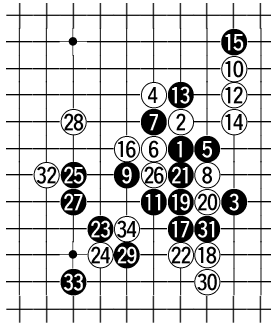


33と引く順を検討しよう。実は白34に石が入るとまた別の狙いが生じる。白36と引いてから38と打てば、何とこの手が四追い三々禁の含み手になっている。黒39と手を入れさせ、白40で剣先を作ってから白42に止めれば、部分的には止まっている。なお、白38を打たずに

単に42に止めてしまつては、黒Aから黒勝ちがある。

【第61図】黒23の局面まで戻つてみよう。ここで四ノビを打たずに

第61図

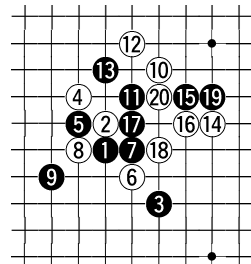


単に白24と防ぐ手が成立すれば、白としてはなお良い展開と言える。ただ、ここから黒勝ちがあるかないかはかなり難解な問題である。黒25と打つのが手筋で黒勝ちのように見えるのだが、黒27の時白28と焦点を止めてどうやらここからの黒勝ちはなさそう

うだ。しかし、白30、34など打ちにくい絶対を発見する必要がある。深く調べておいた方がよい。

【第62図】序盤に戻って白10の開きに黒11と素直に入ったらどうなるのかを考えてみよう。一回ぐらい止めておいてもよさそうだが、実は相手の思うつぼだ。白12と大上段に構えられて、黒はけん制が

第62図

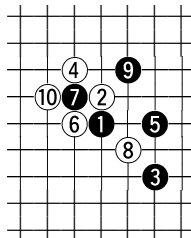


できなくなる。仕方なしに黒13と止めてみても、白14と飛ばれ、白16と三々禁を狙えばこれでも黒に防ぎがなくなっている。こうやって白に勝たれたら啞然とするだろう。

なお、本図では黒5をいきなりトビ三としてゐるが、白は8が最強防なので、同じ図に戻る。

【第63図】この黒5は石の形が良いが、五珠の候補からは外したほうが良さそうだ。同じように白は6と打つが、黒7の後黒は止めに行かなければ

第63図



ならない。黒9と打って白をけん制する手ぐらいしか考えられないが、白10とさらにけん制されると黒が困る。白10で防ぎに来るならまだまだ打てるのだが、けん制される手がたまにあるので要注意だ。

【第64図】黒5は最後に紹介していることが大きいかもしれない。同じく白6なら、今度は黒7から9と引ける。白10の時に

黒11とノリ手で打てるからである。ただし、白12とさらにノリ手で来られた時に、以下四追いが読めていないと打てない。

【第64図】この白4には四か所指定できそうだが、もしかしたらまだ可能性のある手が眠っているかもしれない。

第64図

